

## 平成 30 年度研修会開催報告（詳細は会報誌「日中建協 NEWS」234 号（2018 年 7・8 月号）に掲載）

日時：2018 年 5 月 10 日（木）～11 日（金）

場所：熊本県、長崎県

参加人数：15 社、21 名

今年の研修会は、昨年に続き 1 泊 2 日で開催いたしました。

1 日目は、最初に車窓より「益城町テクノ仮設団地」を見学し、次に熊本地震で被害を受け、現在も復旧工事が続く「熊本城」を見学いたしました。2 日目の午前中は前・島原市長の横田修一郎様にご案内いただき「土石流被災家屋保存公園」「雲仙岳災害記念館」「仁田団地復興住宅地」の 3 カ所を見学いたしました。午後は長崎市内に移動し、日中往来の歴史が展示されている「長崎歴史文化博物館」を見学いたしました。

### <1 日目>益城町テクノ仮設団地

一昨年 4 月に発生した熊本地震においては全部で 4,303 戸の仮設住宅を造っており、最も被害が大きかった益城町には 17 団地 1,556 戸の仮設住宅があります。その中でも益城町テクノ仮設団地は全部で 516 戸建設され、熊本県内で最大規模の仮設団地です。

東日本大震災の経験を踏まえて、棟と棟の間隔を 5.5m（東日本大震災は 4m）に広げるなどしてゆとりある配置計画を行ったり、遮音性の向上や追い炊き給湯器の採用など居住環境の向上を考慮しています。またコミュニティが大切であることから「みんなの家」という集会施設を作ったり、建材には県産材の活用などの取り組みが行われています。



### 熊本城被災現場

日本三名城の一つである熊本城は、加藤清正公が約 400 年前に 7 年の歳月をかけ築城しました。広さは約 98 万㎡、外周は約 5.3km になります。熊本地震により最大震度 7 の激震を二度も受け、重要文化財建造物 13 棟、再建・復元建造物 20 棟の全てが被災しました。石垣は全体の約 1 割が崩落し、約 3 割が修復する必要がありますと考えられています。修復額は石垣だけで約 430 億円、建物も含めると 630 億円くらいで、復旧年数は約 20 年とされています。



### 熊本市役所 14 階展望ロビー

熊本城を見学した後、ガイドの方と共に熊本市役所に移動しました。熊本城に隣接する熊本市役所の 14 階には展望ロビーがあり、熊本城の全容を眺めることができるため、地上からは見ることが難しかった箇所も見学することができました。石垣が大きく崩落し、一本の石組みだけで支えられている「飯田丸五十櫓」の復旧工事の様子も見ることができました。



## <2日目>土石流被災家屋保存公園



この公園は雲仙普賢岳の噴火による土石流の被害に遭った家屋を後世に伝えるため、当時の状況のまま保存しています。大型テント内に3棟、屋外に8棟合計11棟の家屋を保存・公開しています。土石流は流れた直後はドロドロの状態ですが、乾くと金づちで叩かないと割れないくらい硬くなってしまふのだそうです。地面から屋根だけが見えている家屋の数々を見て、土石流のすさまじさを実感しました。

## 雲仙岳災害記念館「がまだすドーム」



雲仙岳災害記念館（通称：がまだすドーム）は自然の驚異と災害の教訓を風化させることなく後世へ残しながら、火山や防災、ジオパークまで、幅広く学ぶことができる全国初の火山体験学習施設です。「がまだす」とは島原地方の方言で「がんばる」という意味です。火山についてリアルに体感しながら学ぶことができました。

## 仁田団地第一公園



雲仙普賢岳災害で被災された住民向けに仁田団地が造成され、その中に仁田団地第一公園が造られました。高台にあるため見晴らしが良く、1792年に起きた地震によって崩落した眉山の崩落壁、島原市街や有明海が一望できます。公園内には「雲仙普賢岳噴火災害犠牲者之碑」も建てられ、毎年6月3日には沢山の方が訪れ、犠牲者の方の冥福を祈っています。天皇・皇后両陛下も被災地訪問の際に献花にいらっしゃっています。

## 長崎歴史文化博物館



長崎歴史文化博物館は、江戸時代から近代にかけての長崎の海外交流に関する資料を扱う博物館です。

地理的に東アジアに近い長崎県は、昔から中国大陆や朝鮮半島と深い関わりをもってきました。博物館のガイドの方に説明をいただきながら、長崎県と中国の交流の歴史を学びました。